

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 坂下高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和8年1月28日(水) 13:30～15:30
- 3 開催場所 坂下高等学校リハビリ実習室
- 4 参加者

会 長	須栗 大	中京学院大学教授 連携推進部長
副会長	鎌田 則之	やさか観光協会会長
委 員	半沢 岳彦	坂下まちづくり協議会理事
	安江 裕之	坂下公民館長
	久野 智治	坂下中学校長(欠席)
	丹羽 達也	坂下小学校長(欠席)
	秋山 小枝	本校同窓会長
	長瀬 愛	中津川市社会福祉協議会地域福祉課
	伊藤あずさ	地域住民代表
	原 京子	本校保護者代表
オブザーバー		
	森 益基	岐阜県議会議員(欠席)
	成瀬 博明	中津川商工会議所専務理事
	岩久 義和	中津川市教育長(欠席)
	野村 充久	中津川市市民部次長
	廣瀬 竜也	坂下総合事務所長
学 校 側		
	杉山 醇	校長
	板津 裕也	教頭
	斎藤 良成	事務長
	熊谷 美奈	教務主任
	曾我 純一	生徒指導部長
	酒井 雅代	進路指導部長
	岡本 拓郎	地域探究科主任
	田上 紘子	福祉科主任

5 会議の概要（協議事項）

（１）令和７年度自己評価について

（２）意見交換について

意見１：地域探究科のゼミ活動のうち、外国人マナー啓発のために制作したお守りは、馬籠にてワークショップを実施するなど、次年度につながる活動内容である。

意見２：地域探究科のゼミ活動から生まれた商品を、坂下でのイベントやお祭りで生徒が販売してもらえると学校だけでなく地域のPRにもつながる。また坂下出身の有名な歌舞伎役者や漫画家が活躍されているので、上手く連携して一緒に何か取り組めると良い。

意見３：地域探究科のゼミ活動のテーマが坂下に関する内容が少なく感じた。坂下をテーマにした探究活動を通して、坂下の魅力発信をしてもらいたい。

意見４：公民館では、学校の活動の様子を紹介やパネル展示を通して、公民館を訪問する人に坂下高校の教育活動を理解してもらえるようにしている。坂下高校の生徒には公民館講座で毎年お世話になっており、どの講座も参加者からは好評である。

意見５：坂下高校の活動を、同窓会を通して同窓生にもっと宣伝していきたい。

意見６：中津川市社会福祉協議会主催の中学生基礎ボランティア講座では、福祉科の生徒にお世話になっている。来月開催される講座には中学生が３０名参加するため、福祉の魅力を浅く広く伝えていきたいと考えている。

意見７：国公立大学の合格に多くの先生方が関わっていたことは、坂下高校の魅力の一つである個別指導の手厚さからだと感じた。

意見８：みんなが入学したい学校にするため、企業と一緒に商品開発をしたとき、イベントやお祭りで販売してほしい。茶道は外国人の関心が高いため、地域の方はもちろん外国人向けに茶室を活用して茶道教室を実施するのも良い。

意見９：手厚い指導と地域連携が坂下高校の強みである。坂下駅のイルミネーションも、地域の方を巻き込んで、国道沿いなどで実施できると良い。

意見１０：坂下高校を存続する方法として、第２回学校運営協議会で未来留学を提案させてもらった。今後、地域で何かできることがあれば協力したいので、高校再編の情報が入ったら、学校から逐次報告をしてほしい。

意見１１：全国募集を考えるなら、中津川市内にある大学が他市へ移転するため、学生が利用していたアパートが空くことが想定されるため、それを上手く活用して、全国募集につなげられると良い。

(3) オブザーバーから

意見1：数年前と比較すると、活力ある学校作りを目指して、学校でできること、地域でできることが分担されており、学校と地域の連携が確立されていると感じる。未来留学について、説明を聞いた飛騨市の方を招いて話を聞く方法もある。マスコミへのPRが弱いので改善できるとよい。福祉科の募集が少ない点の検証をしてもらいたい。高齢者福祉に特化した募集では、なかなか募集が増えないと考える。坂下には、フォークジャンボリーや高峰楽器をはじめとする地域資源があるので、上手に活用してもらいたい。

意見2：生徒への手厚い対応がみられる。次の一手は進路実績とのことで、大切なことである。中津川市としては、域学連携やデュアルシステムなどの活動を通して、一旦他地域に出たとしても将来、坂下に戻って定住してもらえ働きかけをしたい。中津川市と坂下高校の教育が目指しているところが類似している点があるので、今後も連携して一緒に取り組んでいきたい。

意見3：探究活動の成果物もよくできている。今年から開始した選挙の立会人に2名の生徒が応募してくれた。

3 会議のまとめ

- (1) 地域探究科、福祉科とも生徒への手厚い指導が生徒の進路実現につながっている。また地域連携を通じた教育活動が、生徒の主体的に取り組む姿勢や、自己肯定感・自己有用感を高める結果につながっている。
- (2) 今後とも「地域と共に、地域と育つ」をモットーとし、地域の協力を得ながらの教育活動を積極的に導入し、生徒の成長につなげていきたい。また生徒が活躍している場面を地域の方々、中学生とその保護者等に効果的に発信し、本校の魅力を伝えていきたい。